

26年度12月議会

学校図書館整備推進について

質問

次にですね、学校図書館整備推進についてでございます。

さきの議会で学校図書館図書標準を満たす冊数を購入する予算がつけました。短期間で数千冊購入しなければならない学校や、配架のための本棚整備の問題などさまざまな議論がなされました。わずか半年で標準を満たすのではなく、5年計画で徐々に満たした方が実質的な図書館充実にとってはよかったと考えるのですが、予算がついたこと自体はありがたいことでございます。今回、図書購入における1冊当たりの予算をお聞かせください。

原田勝教育総務部長 学校図書館図書整備についてでございますが、去る9月定例会におきまして御可決いただいた図書購入に係る予算額は、1冊当たり税込み1,080円でございます。

以上でございます。

質問

1冊当たり税込み1,080円ということなんですけども、吹田市では例年1冊当たり1,200円前後の予算がついていて、調べ学習に必要な書籍をそろえることを考えれば、1,500円から1,800円程度必要と言われる中で、今回の予算で果たして調べ学習に必要な書籍が十分購入できたのかは少し疑問でございます。

市長に一言だけ申し上げておきますと、学校図書館というのは単に冊数がそろえばいいというものではございません。冊数にこだわるが余り、せっかく予算がついたにもかかわらず最大の効用が達成できなかった可能性もあり、非常にもったいなく感じます。

そのようなことが今後ないよう、対策といたしまして、全国学校図書館協議会が出しております学校図書館メディア基準には蔵書の配分比率が示されております。今後はそのようなものも参考に、市として蔵書配分比率を設けられてはいかがでしょうか。

あわせて、図書選定基準について、かつて提案させていただいて、検討するという答弁をいただいておりますが、経過についてお聞かせください。

富田卓己学校教育部長

蔵書配分比率についてでございますが、これまで小・中学校におきましては、教育目標や児童、生徒のニーズ、教育課程等を考慮しながら、学校図書の蔵書整備を行ってまいりました。

また、図書選定基準につきましては、廃棄基準も含め、現在、全国学校図書館協議会図

書選定基準を参考に作成しました市の指針を学校現場に示し、各学校での基準づくりにつながるよう作業を今進めているところでございます。

今後は、各校の実態に合った選定基準を作成し、全国学校図書館協議会の蔵書配分比率も参考にし、学校図書の実充に努めてまいります。

以上でございます。

意見

選定基準も作成していただけたということで、今後それをもとに、より学校図書館の実充をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

今回、財政規律の問題から、公共施設等の話も触れさせていただきましたし、あと、本当に私たちの世代にとっては非常に大きな問題である少子化対策についても今回触れさせていただきました。

20代、30代、10代も含むかもしれませんが、戦後の世代の方々、あるいは戦中の世代の方々に比べれば、圧倒的にいい環境で私たちは育ってきていると、今後もいくのですが、ただ、どうしても先に示される未来が暗いということが、よく言われておまして、それを何とか変えたいという思いが非常にございます。

その中で、私たちの世代自身もしっかりと今後努力をしていかなければならないんですけども、政治という観点から見て、あるいは税配分という観点から見たときに、もう少し若者世代にも有効に配分していただけると、より力を持って、今後の日本を切り開いていくのではないかなと思いますので、そういった観点から、今回はいろいろ質問させていただきました。

今後、政策推進、よろしくお願いいたします。

以上で質問を終わります。